2023 年度 国税専門官Ａ試験（専門試験［多肢選択式］）　講評　その②

No.	科目	出題内容	正解	正答率※
41	政治学・社会学・社会事情	福祉国家	1	B
42		議会と政党	4	A
43		政治における多様性・多元性	4	C
44		パーソナリティや社会的性格	1	B
45		メディアに関する研究	3	B
46		我が国の労働等	5	A
47	英語	内容把握	5	B
48		内容把握	3	B
49		文章整序	5	A
50		文章整序	2	C
51		空欄補充	1	B
52		空欄補充	3	B
53	商業英語	空欄補充	4	C
54		用語説明	2	A
55		空欄補充	2	A
56		空欄補充	3	C
57		空欄補充	1	B
58		内容把握	4	A

講評

【政治学・社会学・社会事情】　政治学：No.41「福祉国家」およびNo.43「政治における多様性・多元性」の正解肢（ウィレンスキー、テイラー）は、いずれも地上国家一般職レベルでは扱わない人物である。正答できない受験生が多くいたことが推測されるが、「ハイエクは、『アナーキー・国家・ユートピア』において」のように、その他の選択肢の内容が非常に平易である。消去法で対応できた問題である。No.42「議会と政党」は正解肢も含めて、すべての選択肢の内容が平易で、確実に得点したいところである。できれば３問すべて正解したい。

社会学：No.44・45 のどちらの問題も，人名と学説・用語の組み合わせで解けてしまう易問ばかりであった。No.44 のパーソナリティ・社会的性格に関する学説では見慣れないマルクスが出されていたが，その内容はM. ミードのものであることがすぐにわかったであろう。No.45 のメディアに関する研究でやはり見慣れないタルドが出されていたが，これもNo.44 と同様で，内容は別の学者のもの（リップマン『世論』）である。

社会事情：例年通り１問出題された。我が国の労働等に関する動向について、主として 2020 年前後の動向を中心に幅広く知識を問うものである。いずれの選択肢も、社会科学、時事などの別の科目の知識でも正誤を見分けられる平易な問題であるので、是非正解しておきたい。

【英語】　昨年の選択率が 10.7％で，本年の選択率が 9.6％であった。内容把握２題，文章整序２題，空欄補充２題（単語補充）の構成で、昨年と比較すると内容把握が１題減り、その分文章整序が増えた。全体的にやや難易度が上がっており、特にNo.50 の整序問題は文章量も多く、解きにくいと感じた受験生も多かったと思われる。

【商業英語】　昨年の選択率は8.6％であったが，今年の選択率は7.3％であった。例年通り，全体的に難易度が高い。No.53，54，55，57 の４題は文脈を読み取る力よりも慣用表現や語彙などの知識力が問われている。No.58 の内容把握は文章量が短く、比較的読みやすいものであった。

※　正答率（Ａ：60%以上，Ｂ：40%以上 60%未満，Ｃ：40%未満）は，ＬＥＣ公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』のデータ（6/9 時点）に基づいて算出しています。
本成績診断のご利用方法等の詳細は，ＬＥＣ公務員 Web サイトの専用ページ（https://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/）にてご案内しています。

LEC東京リーガルマインド　公務員試験対策　複写・頒布を禁じます

0 001112 227286
KL22728